

# THE **A** MUSEUM

Vol.5-2 第14号 2010.9.10

Saitama Prefectural Museum of History and Folklore



仏教が日本に伝えられて約50年の時を経て、日本初の本格的寺院—飛鳥寺が6世紀末に建立されました。

埼玉県内には東日本最古と推定される寺谷廃寺(滑川町)があり、本県でも7世紀前半に寺院が造立されていたと考えられています。

やがて8世紀後半になると、関東の集落遺跡か

らは仏教的要素の強い遺物が出土するようになります。

また、鑑真がんじんの高弟・道忠どうちゆうが民衆に布教活動を行ったのもこの時期と伝えられており、仏教が次第に民衆に広がっていった様子がうかがえます。

今回の特別展では、考古資料や歴史資料を通し、仏教が地域社会に与えた影響について探ります。

## プロローグ 仏教文化の幕開け

日本に仏教が公式に伝えられたのは、6世紀中頃の事です。

この時、天皇に仏教受容を積極的に進言した蘇我氏が、用明2年(587)物部氏に勝利したことにより、蘇我氏は飛鳥の地に日本初の本格的寺院—飛鳥寺を建立しました。

日本における仏教文化の幕開けは飛鳥からはじまり、各地に広がっていきました。



飛鳥寺 塔心礎の埋納品  
(奈良文化財研究所 飛鳥資料館蔵)

## I 関東への仏教伝播と寺院

飛鳥寺が建立された6世紀末、関東ではまだ古墳が造られていましたが、古墳にかわるモニュメントとしていち早く寺院を建立した豪族もいました。

各地の豪族により建てられた寺院は、中央集権化が進むにつれ、あるいは統合され、あるいは郡役所の付属寺院(郡寺)として再編・整備されました。

主な展示資料：山王廃寺出土資料(前橋市教育委員会蔵)・西別府廃寺及び西別府祭祀遺跡出土資料(熊谷市教育委員会蔵)



東日本最古の軒丸瓦 寺谷廃寺出土  
(滑川町教育委員会蔵)

## トピック 深大寺の白鳳仏

深大寺に伝わる銅造釈迦如来倚像は、白鳳仏の白眉と称される秀麗な仏像です。

ふっくらとした両頬に切れ長の目、わずかに微笑をたたえた口元を表現した面相は「童子形」といわれ、白鳳仏の特徴をよくあらわしています。



重要文化財 銅造釈迦如来倚像(深大寺蔵)

## II 仏教興隆と寺院

大宝元年(701)の大宝律令の制定、和銅3年(710)の平城遷都により律令国家となった日本では、仏教は国家仏教として保護されました。

聖武天皇は、天平13年(741)に国分寺建立の詔を発し、武蔵国でも国分寺の造営がはじまります。末野・南比企・東金子・南多摩の窯では大量の瓦が焼かれ、武蔵国分寺へ運ばれました。

国家的大事業だった国分寺の造営ですが、思うように進まず、郡司をはじめとする在地の有力層の協力を得てようやく完成しました。

主な展示資料：寺内廃寺出土資料(熊谷市教育委員会蔵)・鳩山窯跡群出土資料(鳩山町教育委員会蔵)

## III 仏教の広がり

関東では、8世紀後半から集落遺跡で仏教に関連する遺物の出土が増加します。こうした遺跡で

は瓦葺きの建物はなく、村の小堂のような建物が確認され、村落寺院と呼ばれています。村落寺院では、国家の許可を受けない民間の僧尼（私度僧）が活動していた様子うかがえ、こうした私度僧が一般の人々に仏教信仰を広げていったと考えられます。

また、平安時代になると、比叡山延暦寺や高野山金剛峯寺のように、地方でも人里離れた山の中に寺院が建てられることがありました。

平安時代になり、仏教はようやく人々の間に広まっていったといえるでしょう。

主な展示資料：重文 東山遺跡出土瓦塔・瓦堂（埼玉県教育委員会蔵）、黒熊中西遺跡出土資料（群馬県教育委員会蔵）



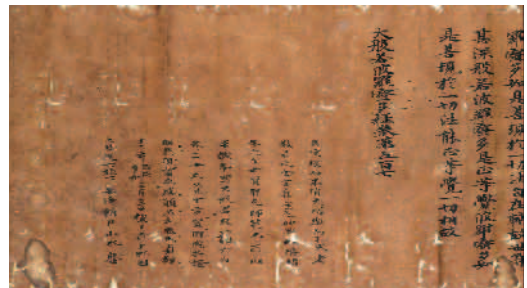
県指定文化財 七重塔の瓦塔 馬込遺跡出土  
（財千葉県教育振興財団保管）

## トピック 道忠と慈光寺

日本三大装飾経のひとつとして有名な法華経一品経（国宝）が伝世する慈光寺は、鑑真の高弟・道忠の創建と伝える古刹です。東国の化主とも称された道忠は関東を中心に活動した僧で、民衆から篤い崇拝を受けたと伝えられています。また、最澄とも親しく交流し、道忠門下からは4人の天台座主を輩出しています。

平安時代、慈光寺は関東天台別院として天台宗の拠点となり、鎌倉時代には源頼朝の帰依を得て幕府とのつながりを深め、大きく発展しました。

主な展示資料：国宝 法華経一品経 阿弥陀経 般若心経三十三巻のうち見宝塔品など十二巻・重文 金銅密教宝具（慈光寺蔵）



重要文化財 紙本墨書大般若経（慈光寺蔵）

## エピソード 祈りの風景

古代の遺跡からは、仏だけではなく、神にも祈りを捧げていた様子うかがえる遺物が出土します。

現代の私たちが神社でも寺院でも手を合わせて祈るのと同じように、古代の人々も自身や家族の幸福を願い、神と仏の両方に祈りを捧げていたのです。

主な展示資料：諏訪木遺跡出土資料（熊谷市教育委員会蔵）・水川神社東遺跡出土資料（さいたま市教育委員会蔵）

## 関連事業

### 1 記念講演会

日時：平成22年10月24日（日）13:30～15:00

講師：須田 勉氏（国士舘大学文学部教授）

演題：「仏教の受容と広がり」

会場：当館講堂

申込：9月24日（金）から電話受付、先着150名

\*参加無料。特別展観覧の場合は観覧料が必要。

### 2 発掘調査担当者による講座

①日時：平成22年10月30日（土）13:30～14:30

講師：永井智教氏（鳩山町教育委員会生涯学習課主任）

演題：「古代鳩山の瓦生産」

申込：9月30日（木）から電話受付、先着30名

②日時：平成22年11月6日（土）11:00～12:00

講師：知久裕昭氏（深谷市教育委員会生涯学習課主査）

演題：「幡羅遺跡と西別府廃寺」

申込：10月6日（水）から電話受付、先着30名

\*①②とも特別展観覧料が必要。

### 3 展示解説

・10月10日（日）13:30～

・10月17日（日）／11月3日（祝）14:00～

・11月14日（日）11:00～・14:00～

（特別展示担当 加藤かな子）



# 学芸員実習 2010

今年度の博物館実習の参加学生の人数は45名、参加校は22校でした。実習は土、日、月を除いた6月22日から7月1日までの7日間行いました。文学部の学生が多い中、心理学部、芸術学部などの学生も見られました。なにより、受け入れ人数が多いことが、当館の博物館実習の特徴として挙げられます。

博物館実習とは、学芸員課程で学んだ知識・技術・理論を、博物館での実体験を通して、さらに磨くことを目的とするものです。加えて、実習においては、学内実習で学んだ内容だけでなく、博物館の現場を実際に経験することで、博物館の理念や設置目的、業務の流れ等に対する理解を求めています。博物館資料の取り扱いや、教育普及活動、来館者対応の実務をになうことにより、学芸員としての責任感や社会意識を身につけ、博物館で働く心構えを学ばせることも目的の一つです。

当館では、先に述べた目的を達成できるように、実習生を2グループに分け、実習を行いました。当館の学芸部は5つの担当に分かれており、実習内容は各担当の仕事のひとつを体験できるように配慮されています。

次に今回の実習内容を担当別に取り上げてみます。

学習支援担当の実習内容：まが玉作り、藍染め体験、学校団体の対応（まが玉作り）

企画担当の実習内容：広報資料の作成

資料調査担当の実習内容：調査書の記入、IPMの理念についての講義、実践

常設展示担当の実習内容：資料の調査書の記入、資料展示

特別展示担当の実習内容：梱包材作り、チラシ配布等の準備、特別展を行うまでの準備についての講義

資料取り扱いの実習内容：資料の取り扱い、資料調査（古美術（掛け軸等）、考古資料（梱包、梱包材作り）、甲冑の写真撮影、拓本実習

学習支援活動の仕事の一つである「まが玉作り」は、「体験する側」と「教える側」の2つの視点を学べるようにしました。博物館実習初日に、「ま



調査書を記入する実習生

が玉作り」を実習生に体験してもらい、後日、実習生自身が、小学校団体の「まが玉作り」体験の補助を行いました。「体験する側」から、「教える側」へ、実践と伝えることの難しさを学んでもらいました。



「まが玉作り」体験の準備をする実習生

「拓本実習」では、大学ですでに経験した学生も多かったようですが、紙が破れてしまう学生や、うまく墨がつけられない学生も多くいたことが印象的でした。実習生にとっては、改めて、実践と経験の重要性を認識する一日になったのではないかと思います。

今回の実習は、実習生はもちろん、私自身も学ぶことの多い実習でありました。

今後の人生において、当館で学んだ経験が、少しでも役に立ち、実習生にとって、最良の選択を可能にする一つの要素になればよいと、願っています。  
(学習支援担当 小林 良美)



歴史のしおり

# 解明が進む埼玉古墳群



常設展示室の第2室に、東日本を代表する古墳群である、行田市の埼玉古墳群を紹介したコーナーがあります。埼玉古墳群は昭和42年のさきたま風土記の丘整備開始以来、調査と整備が継続され、44年にさきたま資料館（現さきたま史跡の博物館）が開館し、平成9年度には將軍山古墳展示館が完成しています。平成18年度には、新たな調査と整備の指針とするため「史跡埼玉古墳群保存整備基本計画」を策定し、翌年度からこの計画に基づき調査と復原整備が進められています。

最初に調査に着手したのは、古墳群南西端にある奥の山古墳です。これまでの調査で、長方形の二重周堀<sup>しゅうぼり</sup>が巡ることなど、多くのことが判明しました。また、花粉分析により当時の植生が、火山灰分析では周堀の埋没過程<sup>けいそう</sup>などが、珪藻分析では堀には水がない空堀であったことが分かってきました。現状では、埋葬施設の発掘調査にすぐ着手することは不可能ですが、東北大学とさきたま史跡の博物館の共同研究で、3 DGPRという地中レーダー探査システムを使用した実験を実施しています。その結果、奥の山古墳には複数の埋葬施設が存在する可能性が高くなってきたのです。

以上のような古墳群の各種調査以外にも、古墳群の広がりや地形などを調べるため、周辺の発掘調査も並行して行っています。土地所有者の承諾を得て、庭先や田畑の空いている所などの調査を行い、これまで古墳と考えられていた場所がそうではないことも分かりました。また、現在は平坦な地形ですが、低地や小さな谷がある起伏に富んだ旧地形が想定できるようになってきました。こういった調査によって、二重の周堀を持つ大型前方後円墳が狭い範囲に集中して造られたという、埼玉古墳群の特徴を再確認することができました。

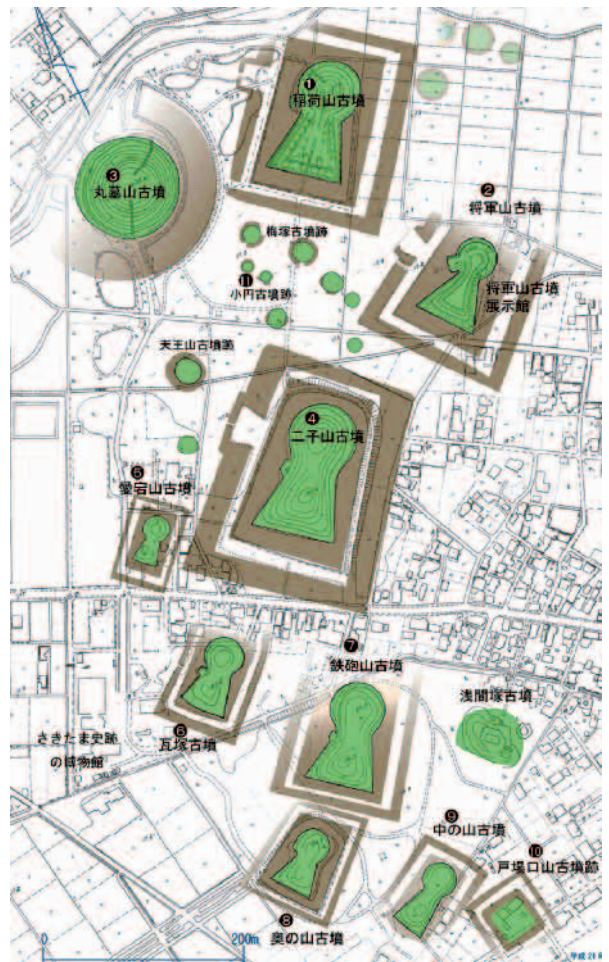
これらの調査には、3 DGPRのほか地形測量では3 Dレーザースキャナー、位置測定にはGPS測量などの先端技術を使用しています。これは、正確な情報を記録に残すだけでなく、将来の整備

や復原・修景・模型製作・CG合成など、保存と活用の分野でも基礎データとすることを想定しているからです。

このように、日本でも最先端の技術と知識を駆使して埼玉古墳群の発掘調査と整備は進められていますが、解決しなければならない多くの課題も残っています。1500年前の古墳群をさらに1500年先の未来まで保存するため、我々がすべきことは少なくありません。

今年度からは鉄砲山古墳の発掘調査が始まりました。第2室の埼玉古墳群のコーナーも、新たな調査成果に基づき、書き換えなければならない日もそう遠くはないと思います。

（主席学芸主幹 井上 尚明）



最新の埼玉古墳群全体復原図



日本の瓦の源流となる朝鮮古瓦の資料として、当館では旧宮川肇コレクションを収蔵しています。

このコレクションは、宮川肇氏が戦前に朝鮮半島で収集した資料で、青銅器・磁器・古瓦等のほか、古瓦の拓本が含まれています。

同氏は、長野県出身で、大正2年(1913)から朝鮮総督府鉄道局に勤め、釜山ステーションホテルや平壤鉄道ホテルなどに勤務し、昭和13年頃に日本に引き揚げ、鉄道省観光課に勤めました。

同氏の古瓦収集は、勤務の傍らで、大正14年(1925)に始まり、昭和3年(1928)には慶州周辺や楽浪郡時代の古瓦を収集し、昭和5年には鷲仙寺址などで盛んに瓦片を収集していたようです。

昭和6年には、考古学研究を目的に創設された釜山考古会の主要会員として活動しています。

同氏の所蔵品は朝鮮半島の慶州、蔚山<sup>ウルサン</sup>周辺のもの<sup>テソン</sup>が最も多く、特に鷲仙寺址のものは全部といってよいほどに収集していたといえます。また、同好の大曲美太郎氏から全州、光州、扶余の古瓦も譲渡され、「氏の如く各地の古瓦を所蔵せる愛瓦家は朝鮮広しといえどもあまり多くはないであらう。」と、いわれていました。

しかし、同氏が採集した大量の古瓦は、当館に寄贈された以外の行方は明らかではありません。

館には、同氏から昭和51年度に、平成20年度に同氏の遺族から資料が寄贈されています。

古瓦は、完形品ばかりではありませんが、楽浪郡時代から統一新羅時代のものまで51点あります。楽浪郡時代の卷雲文<sup>けんうんもん</sup>の軒丸瓦<sup>のきまるがわ</sup>や、統一新羅時代の蓮華文<sup>れんげもん</sup>の軒丸瓦<sup>からくさもん</sup>、唐草文の軒平瓦など、時代の特

徴をもつ古瓦です。

また、古瓦拓本は、2千点を超えるものです。

古瓦拓本は、軒丸瓦・軒平瓦・鬼瓦・塼<sup>せん</sup>・銘文瓦など多種で、完形の瓦から破片まで様々です。拓本には、出土地名や寺院址名、所蔵者名、採拓者名など記載されたものも多数あります。

地域的には、北は平壤から南は済州島まであり、とくに慶州・釜山・全州・光州・平壤周辺の寺院址や城址から出土した古瓦の拓本が多くあります。時代は、楽浪郡時代から朝鮮時代などまで幅広くあります。

なかでも、平壤周辺出土の古瓦と統一新羅時代の古瓦の拓本は多く、多種の文様を見ることができます。戦前に刊行された『新羅古瓦の研究』に収録されている瓦と同種の文様も多く、珍しい瓦と紹介されている「蟾蜍玉兔文」軒丸瓦の拓本も含まれています。このほか、公州を拠点に発掘・採集活動していた軽部慈恩氏所蔵の瓦の拓本もあります。

旧宮川肇コレクションの古瓦拓本は数も多量で、地域も朝鮮半島の広範囲にわたり、代表的な寺院や城址のものも多く、地域的なまとまりのある古瓦類も多数含まれています。また、銘文のある瓦・塼の拓本もあります。拓本には、出土地などが記入されているものも多く、他の調査成果と照合することが可能な資料といえます。朝鮮半島の瓦や寺院研究を進める上ばかりでなく、日本の瓦や古代寺院の研究にも参考となる貴重な資料といえるでしょう。

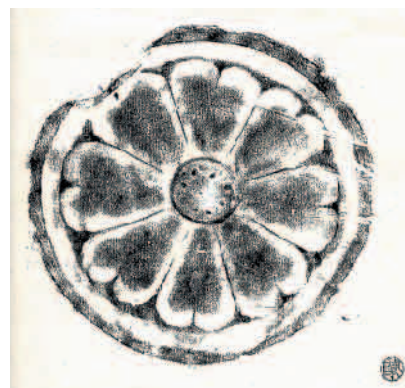
(特別展示担当 兼子 順)



卷雲文軒丸瓦 (楽浪郡時代)



鳥文軒平瓦 (統一新羅時代)



蓮華紋軒丸瓦 (百濟) 拓本

# 交流企画展「出張博物館 in 上里」ただいま準備中!!

昨年の10月2日から11月8日にかけて、当館では深谷市教育委員会との共催で交流企画展「出張博物館 in 深谷」を開催しました。この事業は、当館の大規模改修に伴う休館期間を利用して、当館とは日ごろなじみの薄い県北エリアの県民の皆様にご覧いただく存在を知っていただき、さらには当館へ足を運んでいただく契機とするために企画したもので、おかげをもちまして会場となった深谷市立図書館の郷土資料展示室には多くの皆様にお越しいただきました。

本年度も大規模改修に伴う休館期間中に交流企画展の第二弾として「出張博物館 in 上里」を開催いたします。今回の会場は上里町立郷土資料館で、会期は平成23年2月12日(土)から2月23日(水)まで(ただし2月14・21日は休館)、観覧料は無料です。

今年度も、歴史と民俗の博物館の展示内容や収蔵資料を県北エリアの県民の皆様にご覧いただけるように、目下その準備を進めているところです。上里町は埼玉県内で最も北部に位置する市町村で、群馬県との県境には英泉<sup>えいせん</sup>が錦絵に描いているように、江戸時代には中山道の神流川の渡し場



英泉画 <sup>きそじのえきほんじょうじゆくかんがわわたしば</sup>  
支蘇路ノ駅本庄宿神流川渡場

があったことでも知られています。会場となる上里町立郷土資料館の玄関を入ると、正面の壁面にはこの絵が大きく描かれていますが、神流川の渡し場は県境の町としての上里町を象徴するものといえるかも知れません。

こうした観点から、今回は中山道あるいは児玉地方にゆかりのある資料を中心とした展示構成を考えています。どんな展示になるかは、ぜひ会場でご覧いただければ幸いです。

開催まではまだ時間がありますので、皆様どうぞお忘れのないようにお願いします。

(常設展示担当 大明 敦)



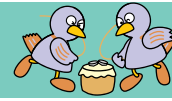
会場となる上里町立郷土資料館（上里町立図書館との複合施設）



# THE A MUSEUM



## 歴史と民俗の博物館イベント情報（10月～3月）



埼玉県の  
マスコット  
コバトン

■特別展「仏教伝来 埼玉の古代寺院」を、10月9日(土)～11月14日(日)まで開催いたします。  
■11月15日(火)から平成23年3月14日(月)まで施設改修のため臨時休館となります。

### 10月

- 2日(土) 博物館裏方探検隊
- 9日(土) 特別展「仏教伝来 埼玉の古代寺院」  
オープン(11月14日まで)  
博物館裏方探検隊 ・ミュージアムトーク
- 10日(日) 特別展展示解説 ・ミュージアムトーク
- 14日(木) ミュージアム・カレッジ(第1回)  
(埼玉大学教養学部共同企画・全4回)
- 16日(土) 博物館裏方探検隊
- 17日(日) 特別展展示解説
- 23日(土) 博物館裏方探検隊
- 24日(日) 特別展記念講演会
- 28日(木) ミュージアム・カレッジ(第2回)
- 30日(土) 博物館裏方探検隊

- 11日(木) ミュージアム・カレッジ(第4回)
- 13日(土) 博物館裏方探検隊
- 14日(日) 特別展展示解説 ・特別展最終日

### 2月

- 12日(土) 企画展「出張博物館in上里 中山道コレクション」オープン(会場:上里町立郷土資料館)
- 23日(水) 企画展最終日

### 3月

- 15日(火) 歴史と民俗の博物館再オープン  
博物館裏方探検隊
- 19日(土) 特別体験「時代衣装の着装」  
ミュージアムトーク ・博物館裏方探検隊
- 20日(日) 歴史民俗講座「埼玉の民俗(仮題)」  
特別体験「藍の型染め壁掛け作り」
- 26日(土) 特別展「降嫁150年記念 皇女和宮と中山道」オープン(5月8日まで)  
特別体験「ベーゴマ作り」  
ミュージアムトーク ・博物館裏方探検隊
- 27日(日) 特別体験「ミニ銅鏡作り」

### 11月

- 3日(水・祝) 特別展展示解説
- 4日(木) ミュージアム・カレッジ(第3回)
- 6日(土) 博物館裏方探検隊 ・ミュージアムトーク
- 7日(日) ミュージアムトーク
- 10日(水) 特別体験「福熊手作り」

## 休館のお知らせ

※埼玉県立歴史と民俗の博物館は、平成22年11月15日(月)から平成23年3月14日(月)まで、施設改修工事のため休館いたします。長期の休館により御迷惑をおかけしますが、なにとぞご理解を賜りますようお願い申し上げます。

なお、休館期間中の催し物として企画展「出張博物館in上里 中山道コレクション」(期日:平成23年2月12日(土)～2月23日(水) 会場:上里町立郷土資料館)を開催いたします。

また、平成23年度3月15日(火)には再オープンし、3月26日(土)には特別展「降嫁150年記念皇女和宮と中山道」(期日:3月26日～5月8日)を開催いたします。ご期待ください。



### 埼玉県立 歴史と民俗の博物館 (編集発行)

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4丁目219番地  
TEL. 048-641-0890 (管理)  
048-645-8171 (学芸)  
FAX. 048-640-1964  
<http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp/>



埼玉県立歴史と民俗の博物館だより  
Vol.5-2(通巻)第14号  
2010年9月10日発行